

自己生成する力 —フレッシュマン・セミナーでの試み—

村尾 修
社会学系講師

1. 新歓の季節

大学時代、テニスサークルに所属していた。私が入学する直前に一つ上の先輩達により結成されたサークルで Sluiceway と名づけられた。我々新入生の入会とともに Sluiceway の実質的な活動が始まり、ある時は後輩として、ある時は先輩として、またある時は OB として、そこで出逢った仲間とともに楽しい時間を共有してきた。15年以上もの月日が経ち、酒の場で交わされる話題も、「失恋話」から「子供の養育費」というように大きく変わったが、そこで得た人間関係は今でも続いている。大学で出逢い、そこで培ったネットワークと、彼らと過ごした多くの時間は自分の生涯の宝である。

桜の季節になると、新入生が入ってくる。人生の門出を迎えた新入生は言うまでもないが、彼らを迎える立場もそれなりに新鮮な気分を味わえる。「新歓コン

パ」、「新歓合宿」、「新歓芸」。「新入生歓迎」を省略した「新歓」というこの言葉には、この季節を象徴する独特の響きがある。それは今も昔も変わらない。

Sluiceway を運営する立場になった頃、この「新歓の季節」は大切な時期であった。各地から集まってきた新入生の大半は、4月から8月位のこの時期に大学生生活の基盤となる人間関係を築き上げる。ある者はクラス内で、またある者はアルバイト先で、それぞれの人間関係が濃厚になっていく。Sluiceway の新入生がサークルの雰囲気馴染み、幽霊部員にならないために、サークルを運営する立場として最もエネルギーを注がなくてはならなかったのはこの季節であった。新入生同士がまだお互いを知らないこの時期に、ある一定以上のテニス練習への参加を義務付け、半強制的にイベントに参加させ、先輩として出来る限り後輩達を遊びに連れ出し、一緒に飲み、家に泊め

た。そんなことをしていると、新入生達はそれぞれお互いに気の合う友人を見つける。そして夏を過ぎた頃には、先輩達とは独立したそれぞれの人間関係を築き上げ、その後の数年間を楽しく過ごすための自己生成力とも言うべき力を身に付けるようになる。新歓の季節における上級生の新入生に対するこのような接し方は Sluiceway の伝統として今でも続いている。

筑波大学に赴任してまだ間もないが、今年一年生のクラス担任となり、フレッシュマン・セミナー（以下、FS）を受け持つこととなった。「大学生活入門」の場として位置付けられているFSを開催するにあたり、前述した学生時代の経験が大変参考になった。

2. フレッシュマン・セミナーでの試み

私が受け持ったのは社会工学類の1年5クラスであった。この23人の新入生のために、全10回という授業の中で何ができるのか。腰塚副学長の経験談なども参考にして、自分で考えたのは次のようなことである。①各々にとって大事な人間関係が築けるような環境を与え、FS終了後も継続的に活動していけるような結束力のあるクラスをつくる。②筑波大学キャンパスという新しい環境に馴染ませ

る。③自ら考え、自ら企画する場を提供する。④自分のアイデアを人に伝え（プレゼンテーション）、ものごとを批判的にとらえ自分の意見を論理的に示す（ディベート）場を提供する。⑤組織の中での自分の役割を認識し、各々の持つ特性（長所・短所）を理解させる。

これらを考慮し、企業研修や心理学の本を参考にして、次のような独自のプログラムを実施した。

(1) タコ紹介

まだお互いをほとんど知らない状態であるためそれぞれの紹介が必要である。二人ずつのペアをつくり、5分間のフリートークをさせる。その後、学生の一人はペアの相手をクラス全員に紹介する（図1）。

(2) 筑波大学キャンパスツアー

チーム分け／各チームによる企画立案／プレゼンテーション／ディベート形式でのトーナメント／最優秀案の実施、という数回にわたる一連のプロセスの中で、筑波大学のキャンパスを探索するというもの。知り合って間もない仲間によって構成されたチームに、ひとつの目標を与えることにより、共同作業の難しさやお互いの性格の違いを認識させるとともに親睦を深めさせる（図2、図3）。

(3) マイヤーズ・ブリッグス・タイプ・インディケーター (MBTI)

自主的なキャンパスツアーという企画の中で、自分の長所・短所、組織内での得意な役割等が少しは浮き彫りになったはずである。それらを考慮し、上のような心理テストを行い、自分の性格や、得意な職種などを知る。

このプログラムを作成した当初は、面白いと思う反面、FSでこんなことをしているのだろうか、うまく行くだろうか、という不安もあったが、いざ蓋を開けて見ると、学生達にも好評であった。キャンパスツアーの企画は、全部で4チームによって競われ、「オリエンテーリング」、「筑波大学入学記念アルバムづくり」、「缶けりツアー」、「みんなの部屋探索ツアー」などのそれぞれユニークな企画が提案された。そして最終的に「みんなの部屋探索ツアー」に決定した。これは、「寮に住んでいる友達の部屋（ほぼ全員）を訪れることによって、普段見慣れない一面を見て親睦を深める」という一見地味で、怪しげなものであった。ツアーが始まるまで想像もつかなかったが、いざ皆の部屋をまわって見るとそれぞれの個性があって、大変楽しかった。途中、食堂でアイスクリームを食べ、最

後は質問ゲームをして表彰式も行った。

授業の最後に授業評価のアンケートをとったがなかなか好評であった。また各部屋での家主の写真と探索中の写真はア

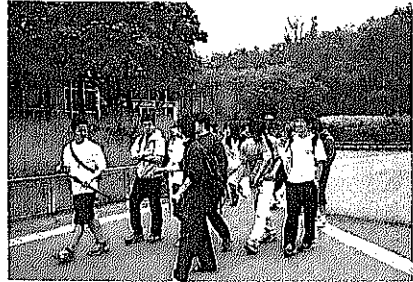


写真1 キャンパス探索中の風景



写真2 企画者の部屋での集合写真

アルバムになった（写真1，写真2）。

3. 自己生成する力を育てる

教育に関する議論を良く耳にする。仮に理想的な教育が出来たとしても、やはり教えることには限界がある。逆に言えば、各家庭，教育機関，近隣地域，公共空間，友人，アルバイト先などなど、あらゆるところに学ぶ場所・学ぶ事柄はころがっている。社会のあらゆる場所に身

を置き、体験し、問題意識を持ち、そこで得た様々な事象を吸収し、自ら学んでいける能力。そして多くの時間を共有し、将来の財産となるであろう仲間というネットワーク。限られた時間内で知識を植え付けることには限界があるが、自ら社会を泳いでいくために必要な、スポンジのような力を伸ばすことは出来ると思う。それは教科書にはのっていない。

（むらおおさむ 都市計画専攻）

